

明治6年「廿三夜大神」銘の道しるべ

所在地 八千代市米本2613石塔群

藤 由 美

米本の下宿東にある道祖神社東側の木立の下に「廿三夜大神」銘の道標がある。どんな人が揮毫したのか、豪放闊達な筆捌きの文字塔である。

「右下高野佐倉 左保品印西 道」と記されている。この地点を迅速図で探すと、ゴルフ場の中を通る保品への二又道あたりではないかと推察できるが、今の地図では分からない。

「廿三夜大神」という銘文も珍しい。旧幕時代なら「廿三夜塔」で問題はなかったが、時は明治6年（1873）、旧暦が新暦に変わり、米本小学校（現阿蘇小）ができ、柴原県令が盆踊りや施餓鬼など古い習俗の無用を説いたころであり、そして、「神仏判然令」による廃仏毀釈の嵐が吹き荒れた直後である。

「塔」は、ストウパ=仏舎利塔を意味するとなれば、神道系の「月読尊」にするか、「塔」をかえて「廿三夜大神」にするしかない。大きな字体は「さあこれでどうだ」といわんばかりである。村の片隅の道標ひとつにも、明治新政府の影響が大きかったことを伝えている。

